質問に対する回答

別府市立朝日小学校 PTA

【質問】

■PTA 活動をやりたい活動へ変革するための「この指とまれ」方式も素晴らしいと思いました。

一方、自主性を求めることになるので「一人に負担をかけない」課題に相反するのかと思いました。全員参加のためにどんな工夫をしているのでしょうか？

回答：ひとりに負担をかけないというのは、必ずしも全員参加しなければいけない事だとは思っていません。

逆にできない人はできないも有りだと私は考えます。

できない人にはできないだけの理由がある。それを肯定してあげるのも任意団体としての PTA が本来あるべき姿だと思います。

しかし、そうすると特定の人に負担がかかるのも事実です。なので、「ひとりに負担をかけない」とこちらが呼びかけることで、前回できなかったからとか、前回はあの人がやってくれたから、今回は私がしようと前向きに考えてもらうことを目的としています。

「やりたい人」ではなく、「できる人」がなので、必ずしもやりたいたけの人がやりたいことをやっているのではなく、できる人にやってもらっているということを感じてもらいたいと考えています。

PTA としてこの目標を掲げることで、少しでも自主的に参加しようと思える人を増やす。そのために保護者同士のつながりを感じてもらえるような活動を常に行っていくことが必要だと思っています。

■PTA 役員の選出はどうしているのか？地区ごとに○人と強制なのかとも感じました。やはり強制しないとできない今の保護者を残念に思う。

回答：PTA 役員の選出については、今後も改革が必要だと思っています。現在は、希望者を募り、足りない部分は学年部によるくじ引き等で決めています。(免除の規定あり)これには賛否あると思いますが、私も最初はクジで学年部に選ばれ、クジで学年長になり、クジで次期執行部選考委員長に選ばれました。それがきっかけで、今なぜか会長をしています。中々、自ら手を挙げるといのは勇気もいりますし、周りからやりたがりと思われることも多いです。でも、クジで選ばれたなら仕方ない。今年だけでも頑張ろう！と言う人は必ずいます。そういう人の中にこそ、将来の会長候補が眠っているのではないかと実体験で感じています。

やりたい人も大事ですが、やって欲しい人をいかに発掘するか。そのためにはくじ引きも必要だと感じています。

■校内に児童クラブが5つあるということがすごいです。立地問題もあると思いますが、放課後の生徒は安心すると感じました。運営は別だと思いますが、校舎内にあるのか？区切りなどの件が気になりました。

回答：児童クラブは全て学校内にあります。空き教室2つに、元図書室、元図工室、空きスペースにプレハブを建てて利用しています。(図書室は2つあった)

空き教室と元図工室は特別教室棟内の同じ建物にあり、元図書室とプレハブはそれぞれ別棟で利用しており区切りなどは特にしていません。

児童が放課後、学校外に出ていくことがないので事故の心配もなく安心です。しかし、5つあっても他の児童クラブと同じく希望者が多く、希望する全員を受入ができていない状況です。預かりも最長19時までしてもらえることも人気のひとつだと思います。

児童クラブの占有部分が多く空き教室や学校敷地には余裕がない状況にあります。

■PTA会員の児童と非会員の児童のPTA活動の関わり方の差別化はどうされていますか？(安芸中は差別化なし)

回答：そこはPTAの理念に沿って考えています。PTAは社会教育団体であり、非会員の児童を除外して活動を行うことはできません。なので、基本的には全ての児童に配布するものは配布をおこなっています。

しかし、今は退会者が数名なので出来ませんが退会者が増えていけば辞めざるを得ないと考えていますし、どうしても配布する場合は実費負担を考えなければいけないと思います。なので、学年部予算が余った際に、進級に向けて文房具を配っている場合がありますが、退会者がいることをふまえ、できるだけ避けて欲しいと要請しているところです。

PTAからの配布物は内容によって非会員へ配るか配らないか判断していますが、退会者の中にPTAからの配布物は一切受け取らないと言う保護者がおり、そういう人は必要に応じて学校側が個別対応しているようです。

■役員さんがとても多いので連携をとるのが難しそうと感じましたが、役員会や学部長の集まる頻度をお聞きしたかったです。

回答：執行部会は必要に応じて都度開催していますが、平均して年に5～6回、役員会は年に3回～4回、委員会は年に1～2回です。基本的な連絡にはLINEを活用していますので、部会を開かず、グループLINEだけで済ませる部もあります。でも、対面での話し合いが保護者同士のつながりを感じることを考えていますので、できるだけ部会を開くように要請はしています。